

環境調査結果のお知らせ

令和8年10月8日10時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、ハプト藻が最高で300 cells/mL確認されました。また、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最高で3 cells/mL確認されました。

海や養殖魚の状態に不安や変化を感じた時は、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	珪藻	アレキサンドリウム 属	ハプト藻
	(m)	(℃)		(mg/L)			
A 中学校前 (3.1m) 【10:03】	0	24.6	29.5	7.7	20,700	1	300
	2	26.3	30.9	7.1	17,400	0	150
	5	28.3	32.2	5.0	8,700	3	0
	10	27.7	32.5	2.5	200	0	0
	底層 11	27.7	32.5	1.9	80	0	0
B 目ノクソ (2.9m) 【10:24】	0	25.0	30.1	7.8	5,750	0	-
	2	25.0	30.2	7.8	6,300	0	-
	5	27.8	32.1	5.6	2,950	0	-
	10	27.8	32.5	3.6	250	0	-
	底層 14.5	27.7	32.6	3.5	100	0	-
C 光松 (3.5m) 【10:41】	0	25.8	24.5	7.8	14,500	0	100
	2	25.8	24.5	7.8	17,300	0	50
	5	26.6	24.1	6.8	8,700	0	100
	10	27.7	23.9	4.3	1,000	0	0
	底層 15.5	27.6	23.9	3.4	350	0	0
D 大鹿 (3.5m) 【10:52】	0	25.9	30.7	7.6	2,100	0	-
	2	26.1	31.1	7.4	14,600	0	-
	5	27.0	32.1	6.1	8,200	0	-
	10	27.7	32.5	4.1	800	0	-
	底層 15.5	27.6	32.6	3.4	650	0	-
E 水試小割前 (4m) 【11:07】	0	26.5	31.5	6.7	4,400	0	0
	2	26.5	31.6	6.5	3,550	0	0
	5	26.7	31.8	6.0	5,500	0	0
	底層 8	27.0	32.0	5.3	1,550	0	0

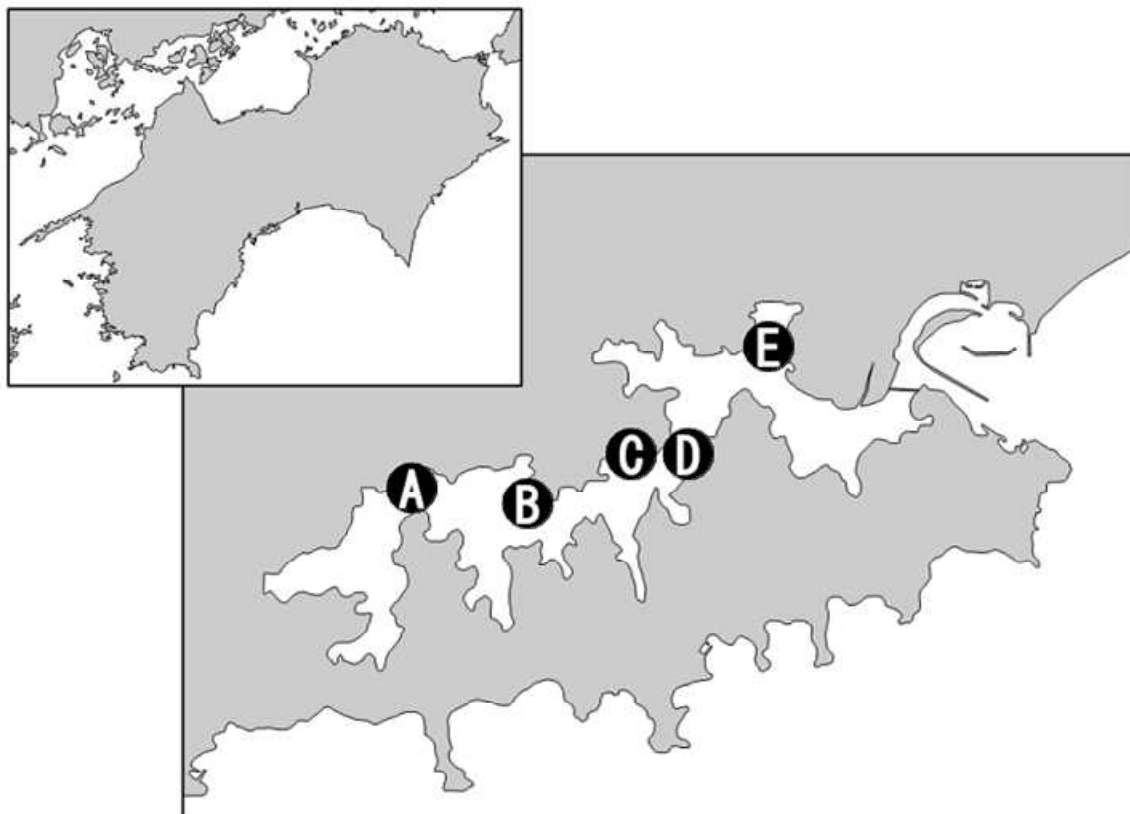
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 中学校前

B: 目ノクソ

C: 光松

D: 大鹿

E: 水試小割前

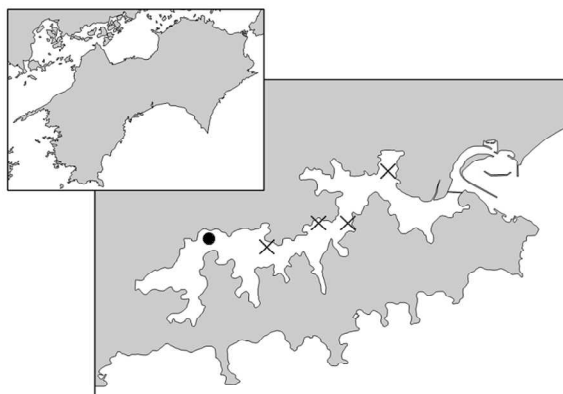
珪藻

最大細胞密度



アレキサンドリウム属

最大細胞密度



ハプト藻

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ

円のサイズが大きいほど、プランクトンの数が多いので注意してください。

0
×

1~9

10

100

1,000

10,000

100,000

300,000

注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。

基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

